

YAMAHA NEWS NO.68

ヤマハニュース

'69 **2** FEB.

特集

売りやすく買いやすい'69ヤマハシリーズ



ヤマハ-N 250 DT1

高品質を生むヤマハの技術



熱処理



炉の中に満ちた 900度の熱が そして世界一
ヤマハの技術を支える情熱の炎が 強くエン
ジン部品をきたえる 部品のひとつひとつが
ヤマハの高性能を生む貴重な原動力なのだ

'69シーズン拡売の決め手

売りやすい 買いやすい 5シリーズ41車種のヤマハが勢揃い



大型成長が期待される'69シーズンの開幕を目前にひかえて、高品質・高性能のヤマハがさらに売りやすい、買いやすいものとなりました。魅力の新型車を中心に、新しく登場したシリーズは、メイト、ビジネス、スポーツ、スクランブラー、トレールの5シリーズ、総勢41車種(カラー別)の豊富なバリエーション化でお目見得です。

“求めやすく、売りやすく”——あらゆるお客さまを満足させるヤマハの豊富な車種揃えが、お店の大型成長を約束します。

ここに'69シーズン拡売の決め手・ヤマハ車のラインアップをご紹介します。

●一家に一台 だれもが乗れる

ヤマハメイトシリーズ

●なによりもまず

手軽に乗れるのが

ヤマハメイトシリーズです

紳士は青島のままで、ご婦人はスカートのみまで、通勤に、シヨッピングに、巾広くつかえる家庭のクルマです。運転操作もきわめて簡単。免許をとったその日からベテランなみに走れるほどのやさしさです。しかも、燃料消費は至って経済的。ヤマハが首先に完成させた2サイクル・ロータリーバルブでエンジンにはネバリがよく、オートバルブで耐久性は万全です。……メイトの良さはとつきりあります。そしてさらに

●拡売の決め手は

ヤマハメイトだけの

自動遠心クラッチです

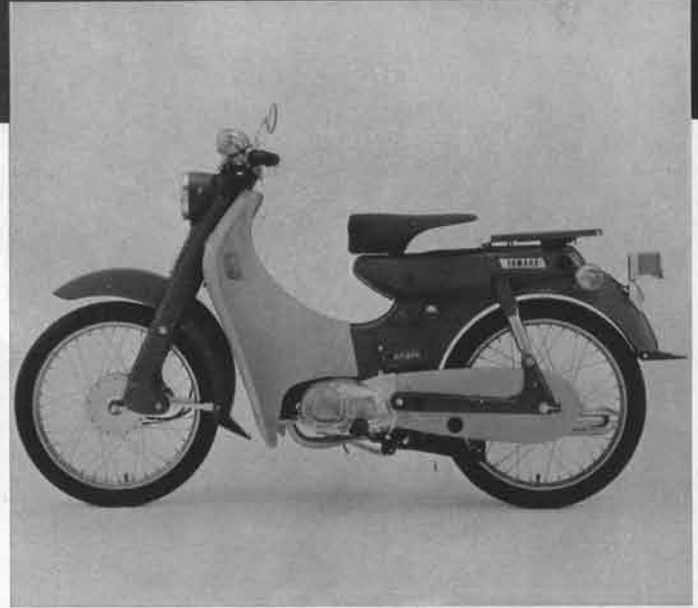
メイトタイプの車は、むずかしいクラッチ操作を省くために、遠心力を利用した自動クラッチが採用されています。エンジンの回転によって発生する遠心力をローラーにかけ、これをオモリとして、クラッチをつないたり切ったりするのですが、ヤマハメイトには、このローラーが、左右どちらにもまわるダブル構造となっています。だからローラーの動きは無理がなく、きわめてスムーズ、正確なクラッチ操作が行なえるといわれています。同じ自動遠心式クラッチなら、すぐれた設計のヤマハメイトが選ばれてまた当然です。またキヤ位置に関係なくエンジンがかけられるワンタッチキック方式もメイトの大きなセールスポイントとなるものです。

このヤマハメイトには、一人乗りのU5Rと、同セル付のU5Eテラックス、二人乗りのU7と、同セル付のU7Eテラックスとがあり、カラーは明るいメイトブルーとシックなアロマブルーの二色がそれぞれ用意されています。



ヤマハメイト70U7

メイトブルー／アロマブルー ¥68,000



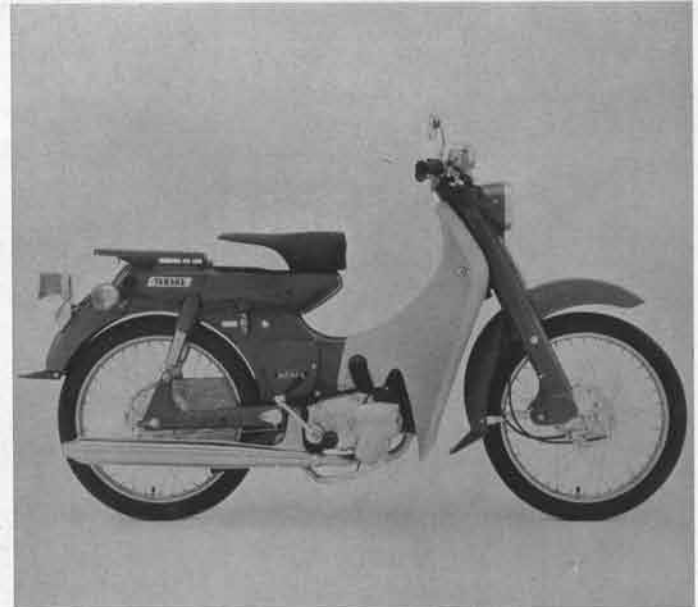
ヤマハメイト50U5D

メイトブルー／アロマブルー ¥57,000



ヤマハメイト70U7Eテラックス

メイトブルー／アロマブルー ¥70,000



ヤマハメイト50U5Eテラックス

メイトブルー／アロマブルー ¥64,000

●無駄をなくして大きく働く

ヤマハビジネスシリーズ

出足はトップ、伸びのきく加速、たとえ車荷をのせても、軽快さに大きな変わりはありません。ヤマハが世界に先をかけて完成したオートトルーパーエンジンに、常に理想的な潤滑が行なわれ、ロトタリーバルブが余裕ある出力を生みだしています。人気車種の90ccにはシグナル・エンジンのほか、快足の125cc、50cc、60cc、80cc、90cc、125ccと、予約と用途により自由に選べる豊富な車種揃え。ヤマハならではの、しかもすべての車種に、マネのきく、特許の安全ブレーキ、安全防水・防塵式ブレーキが装備されているのです。またランプ類もすべて大型化され安全です。

●新しい交通のエース
それがタフな
ヤマハビジネスシリーズです

人も増えれば、これからは車もさらに増えます。だから道路は混むいっぽう、駐車場ひとつ考えても、都会地ではすでに飽和状態。四輪車で出かけるにはある意味で勇気さえ必要です。街中でのノロノロ運転、不経済な燃料消費量、そして目的地での駐車場の困難。時代の足は再びオートハイに向けられているのです。オートハイから軽三、軽四、そして普通に変更した人、乗換えさせた人も、そくそくオートハイにカムバックしています。維持費が安く、スピーディーで、仕事の成率が大きくあげられるからです。

●拡売の決め手は安全性
ヤマハビジネスシリーズなら
まかせられます。



ヤマハ60J5 ヤマハブラック ¥64,000



ヤマハ50F5 ヤマハブラック ¥60,000
F5-E ヤマハブラック ¥69,000



ヤマハ90H3 ヤマハブラック ¥75,000
H3-E ヤマハブラック ¥80,000



ヤマハ80G5 ヤマハブラック ¥71,000



ヤマハ125A7 ヤマハブラック ¥135,000



ヤマハオートトルーパー90 AT90
キャンディーレッド ¥84,000 ヤマハブラック ¥83,000
デラックス AT90-D ヤマハブラック ¥88,000

●性能で差をつける男のクルマ

ヤマハスポーツシリーズ

●スポーツならヤマハ
この実績が若いファンの
心をとらえています。

日本で最初に性能を楽しむ車（YD1）をつくったのがヤマハであれば、ツーリングにもロードレーサーにも、そしてスクランプラーにもなる本格派スポーツ（YDS11）をまっさきに開発したのもヤマハです。性能テストの場を海外に求めて、日本車として初の海外レース（アメリカ・カタリナレース）に挑戦し、堂々入賞の偉業を果たしたのは十年前のことでした。もちろん国内にあつてはデビュー以来つねにトップです。富士登山レース、浅間火山レース、クラブマンレース、モトクロス日本グランプリ、ヤマハは各地のレースで連続連勝の記録を残しています。さらに世界選手権ロードレースでも、数々の歴史に残る偉大な記録をつくりあげています。一周の距離が60キロ以上と世界一長く、また大小219のカーブと400メートルにおよぶ高低差で世界一むづかしいといわれているイギリス・マン島のTTレースで、500ccクラスでもなかなかつくれなかったオーバー・トン、すなわち平均時速100マイル（160km/h）のスピードの壁を、250ccクラスで、しかもスタンディング・スタートの第一周目でマークしたのもヤマハならば、次にはとうてい不可能とされていた125ccクラスでオーバー・トンを果たしたのもヤマハです。125ccクラスで、マン島TTレースに連続4年の優勝を果たしているヤマハは、昨年は通算三度目の250ccクラスと、125ccクラスの両部門のメーカーチャンピオンを獲得して技術の優秀性を世界に実証しています。この実績が、性能本位で選ぶ若者たちの心をとらえているのです。

●技術のヤマハだから

高品質、高性能で

ほとんど売りこめるのです

性能で、品質で、デザインでリードするヤマハスポーツシリーズには、テストの場を世界に求め、レースで鍛えた独自の技術が最高度に生かされています。エンジン技術ではロータリーバルブの実用化、オートリールアップの開発、完璧なセンターシールのラビリンスパツキン、メタリックボンドの理想的なアルミシンター、ネバリ強さを一段と増す5ポート掃気、すべてヤマハが完成したものです。



キャンディーイエロー／アドリアンブルー ¥87,000



ヤマハスポーツ50F5-S

ヤマハブラック ¥62,000

キャンディーレッド ¥63,000



ブリリアンレッド／アドリアンブルー ¥187,000



ヤマハスポーツ180CS2-E

キャルホルニアンオレンジ ¥169,000



ブリリアンレッド／アドリアンブルー ¥228,000



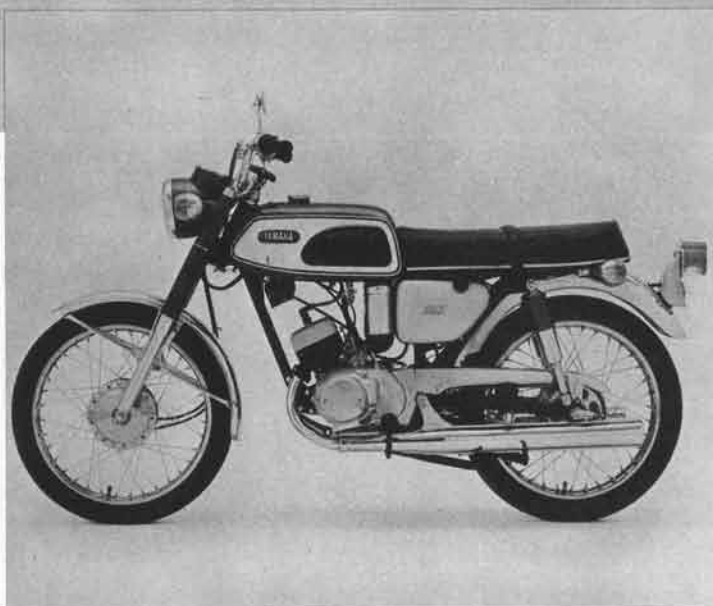
フレーム技術ではプレスで完全なフボーン、パイプで十年の実績が光るダブルクレードルそして新開発のダイヤモンド型と、巾広さと技術の厚さで群を抜いています。マネのできない特許の安全ブレーキもヤマハだけ。雨天も、砂塵の中でも、最高度の安全が確保されてスポーツのダイゴ味が満喫できるというものです。OS2-E、DS6、R3のセパレートメーター、そしてスポーツカーなみにワントッチで操作できるハンドルクラウン部のイグニッション・キー、125ccスポーツで97kgの身軽さで話題のAS1デラックス、そして90ccではヤマハだけの12ポルトA0ジェネレーターを採用したHS1、手軽にスポーツが楽しめるFS1S、スバリいって世界のトップクラスが勢揃いしているのもヤマハならではの技術が大きくものをいっているのです。

● 拡売の決め手に

数字では表わせない

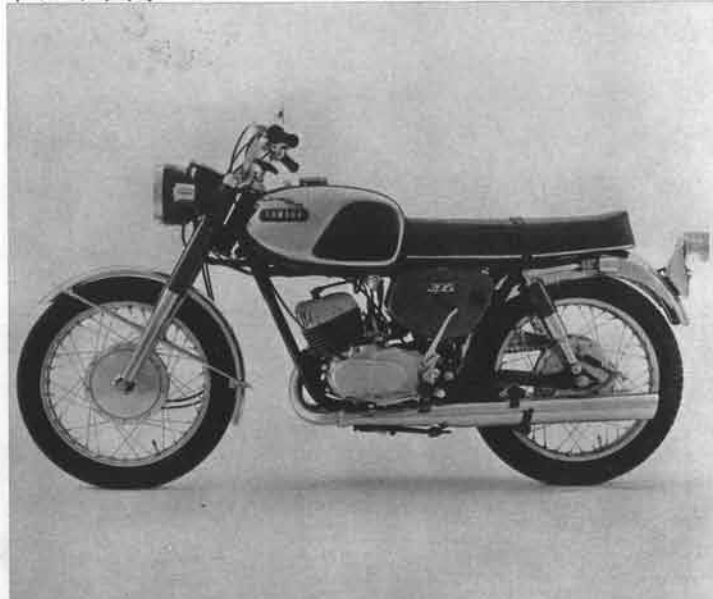
本質的な性能が売れます

ゼロヨン加速、最高出力、最高速度、スポーツ車にあこがれる若人の決め手となる主要な性能諸元です。しかし、最高の逆も大きなセールスポイントです。5ポルトによる低速でのネバリ強さ、完璧なフレーム設計とバランスのよいサスペンションから生れるコーナーでの絶妙な操縦性、安定性。そしてブレーキングのコントロールの味。いずれも、性能を決め手に選ぶ乗りなれたユーザーがヤマハを指名し、ヤマハをすすめる根拠が、この数字では表わせない優れた性能にあるのです。



ヤマハスポーツ125AS1デラックス

キャンディーレッド ¥137,000 カスタム ヤマハブラック ¥135,000
ヤマハブラック



ヤマハスポーツ305 M2

キャンディーブルー ¥195,000



ヤマハスポーツ90HS1



ヤマハスポーツ250DS6



ヤマハスポーツ350R3

●ダイナミック・ライディングを楽しむ

ヤマハスクランプラーシリーズ

●新しい話題

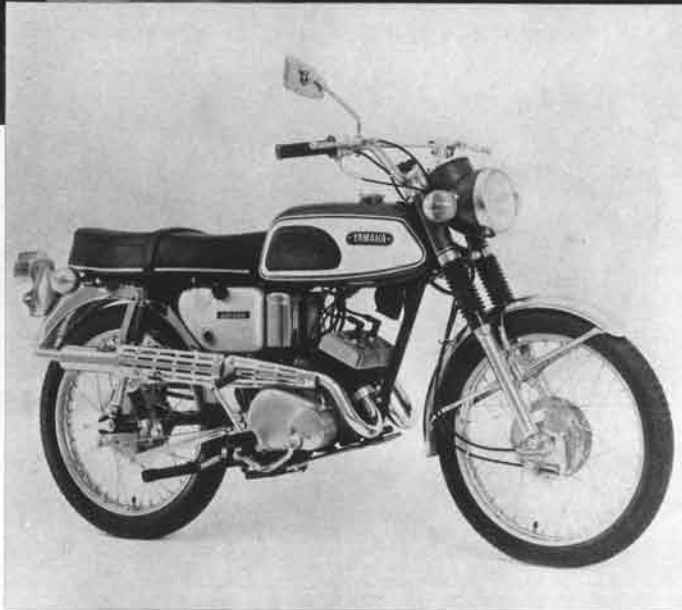
それはヤマハスクランプラーシリーズの登場

スポーツからドレールへ、新しい需要層をきりひらいて独走するヤマハに強力な新シリーズが登場しました。ヤマハスクランプラーシリーズの発売です。町を野をたくましく、豪快に走るスクランプラーに、若人の話題が集中しています。昨秋の自動車ショーでもとくに人気の高かったR3Cは、文字どおり2サイクル大排気量車の魅力をちからづくよくアピールして好評です。またDS6-Cは、このクラスのスポーツ車を手がけては第一人者を自負するヤマハがストリート・スクランプラーの決定版として完成したものです。そしてA11にハドンタツチしてヤマハスクランプラー125となった好調のAS1-C。ヤマハスクランプラーシリーズはいずれも新しい魅力をそなえた行動派の車で、お店の看板モデルとして購入意欲をわきたたせるに十分です。

●拡売の決め手は

ダイナミック・ライディングの豪快な乗車性

ブリッツ付のアップハンドル、ブーツ式のフロントフォーク、マフラーガードもひとさわ印象的なアツフマフラー、そして3段負荷調節装置付のリヤクツション。すべてにたくましさがかちからづくよく表現されています。凹凸の荒々しいラフ・ロードを、大胆に乗りこなすアップハンドルはブリッツ付でショックにたよよく、またクランクケース下部には障害物からエンジンを守る強固なガードもついてダイナミック・ライディングを意のままのものとしています。オートループと5ポートが常に変わらぬネバリ強さを持続すれば、あらゆる状況にマッチする5段変速機がパワーバンドを広げます。ここにヤマハスクランプラーシリーズ独特の豪快な乗車感が味わえるというのです。



ヤマハスクランプラー-125AS1-C キャンディーレッド/ヤマハブラック ¥139,800



ヤマハスクランプラー-R3C
キャルホルニアンオレンジ ¥230,000



ヤマハスクランプラー-DS6-C
キャンディーグリーン ¥189,000

●世界の若者たちをトリコにした

ヤマハトレールシリーズ

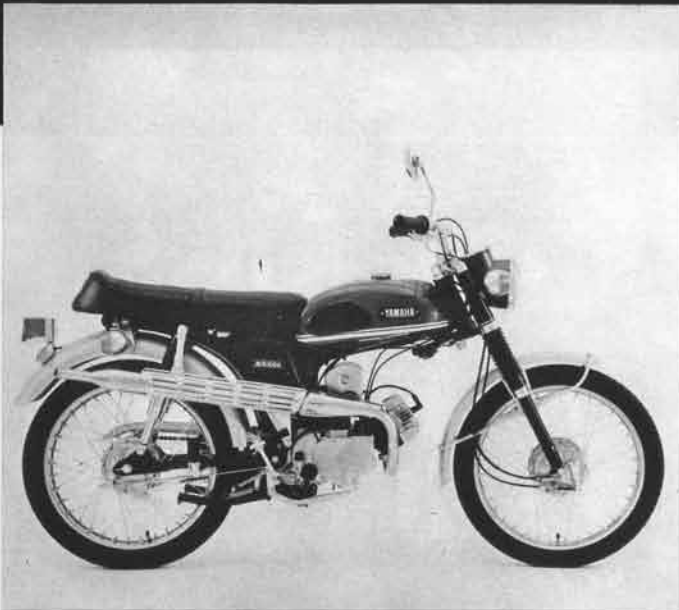
●需要をつくるヤマハ
繁栄するお店の原動力が
ヤマハの拡売です

新しいオートバイの活用方法をうちたてたのがヤマハトレールシリーズ。冒険を好む若者たち、行動する若者たちの心をしっかりと握んでいま世界にトレール・ブームを巻き起しています。ヤマハならではのアイデアと、ヤマハならではの行動力が、この新しいシリーズをスポーツの主流へと結びつけたのです。折りからトレール教室も各地で盛んに行なわれています。美しい、愉快なトレール・ライディングがオートバイの再発見をしたファンも少なくないはず。そしてトレール車はヤマハだけのベストセラー・シリーズです。需要をつくるヤマハに、69シリーズも大きな発展が約束されているのです。

●拡売の決め手

トレールシリーズは
ヤマハだけのものです

経験の少ない若いファンにトレール・ライディングをすすんでもらおうならばF5、C、H3、Cが、本格派トレール・ランで腕を磨きたいファンにはAT1、そして二機種のトレールで差をつけたいファンにはDT1をおすすめください。なかでも新発売のAT1は冒険好きな若者たちの間で一大センセーションを巻き起しています。回転の吹きかき、ネバリ強い5ホート、オートルーフエンジン、簡単にメインジェットが変えられるキャブレター、5段変速、ワンタッチキック、そしてこのハワユニットをのせたフレームは高張力鋼管使用のダブルクレードル型。フロントフェンダーはアルミ製で最大3・00、19、リヤフェンダーは鋼板製で最大3・50、19インチまでのノーヒータイヤの装着が可能。スプリング内蔵式のフロントフォーク、3段階切替のリヤクッションなど、その装備はこのクラス唯一の本格装備での登場です。DT1とちども大いに売れる大型商品です。



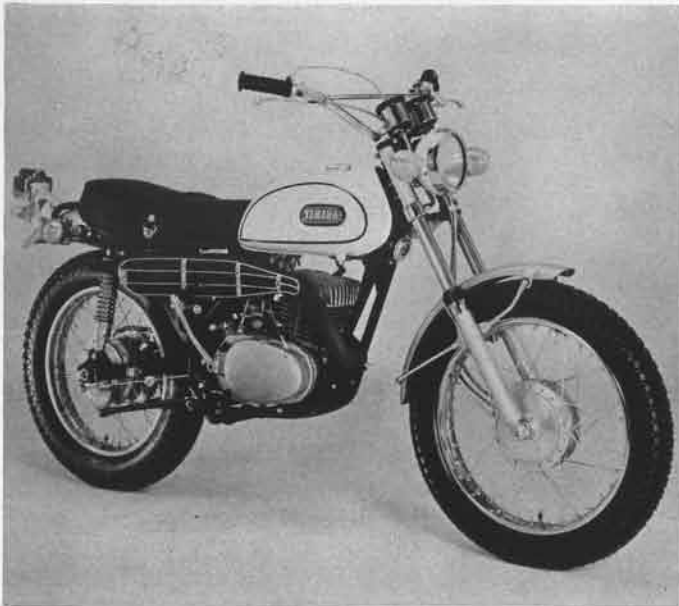
ヤマハトレール 90H3-C

ヤマハブラック ¥77,000



ヤマハトレール 150F5-C

キャンディーレッド ¥63,000



ヤマハトレール 250DT1

パールホワイト/キャンディーイエロー ¥193,000



ヤマハトレール 125AT1

パールホワイト/キャンディーイエロー ¥145,000

●在日アメリカ空軍の勇士たち

トレール旋風の目

アメリカの荒野で生まれたトレール・ライディングは、ヤマハトレールの発売を機会にいまや全世界のモーターサイクル・ファンの中で、さかんに行なわれるようになりました。東京周辺のアメリカ空軍基地に勤務する勇士たちも、余暇を利用して、野山を爽快に飛ばしたり、ときにはモトクロスにも出場するなど、トレール・ライディングの楽しさを追求しています。

痛田、立川、厚木、座間など、米軍基地には、モータースポーツ愛好者によるそれぞれのクラブがありますが、これらのクラブが集まって組織しているのが日本モーターサイクルクラブ連盟のTMA支部です。モータースポーツをつうじて、TMA支部の人たちと日本のモーターサイクル・ファンとの間に、暖い交流が生まれています。



◀TMA支部の会長をつとめるチェスター・マルキンさん。



急な斜面を直ぐに、アメリカ空軍勇士のヤマハトレールT25AT1がいく



▲トレールで結ばれた同士は、ともに痛田基地のメカニック。左からウォーター・ハムレー、バーブ・ニーバー、チェスター・マルキンさん。



▲冷雨の中で行なわれたサマーランド・スクランブル大会でDT1同士のせり合いのすえ、みごと優勝したTMA支部のシャンク・テールさん。



「オウ、ジャッキー、ヤマドリ、ネ」ジャッキーの愛称で親しまれる山崎喜市さんは、昭島市玉川町にある山崎モーターズの経営者だ



▲自分でやるチューニングもトレール・ライディングの楽しみのひとつ。山崎モータースでは、豊富な工具とパーツをお客さんのために用意してある。

◀八王子にほど近い滝山で、トレール・ハンティングを楽しむマルキンさん。





▲ アメリカ人のフロンティア・スピリットが生んだ新しいモータースポーツ。それが「トレール・ライディング」だ。



▶ 1月12日に行なわれたサマーランド・スクランブル大会でもTMA会員は大挙出場した。AT1の車検を受けるニーバーさんは、ジュニアクラスは初出場ながら、5位に入った。

▶ どのモトクロス場でもヤマハトレールは圧倒的に多く、そして強い。

国民総生産と国民所得

工業、農業、商業など、あらゆる分野で生産され、分配され、支出された財貨およびサービスの価値を合計したものが、つまり、国全体の総生産が国民総生産で、これはその国の経済力を表わすバロメーターでもあります。昭和四十二年度におけるわが国の国民総生産は自由圏諸国の中でアメリカ、西ドイツに次いで第三位、1157億ドルにのぼり、昭和四十三年には1209億ドルの西ドイツを抜いて世界第二位になることが確実だといわれます。まったく素晴らしい成長率です。

ところで、この国民総生産から機械や設備の使い減らした分、つまり減価消却費や間接税を差し引いたり、政府からの補助金など国民の所得となるものをつけ加えた総所得を国民一人一人の平均所得に割ってみたのが一人当り国民所得といわれるものです。この国民所得が大きければ大きいほど生活水準が高いことを表わすのですが、さて、わが国の一人当り国民所得というと、なんと世界で二十一番目、1000ドル(36万円)にも達していないのです。つまり稼ぎは大きくても必要経費が大

きく、その割りに所得があがらないという状態にあるのです。しかし、年々この国民所得も上昇してきており、昭和四十三年の推定では1000ドルの大口を越えるであろうといわれ、五年後には現在の二倍、すなわち2000ドル台を突破し、より豊かな暮らしができるものと期待されています。

あなたのお店の総生産と平均所得はいかがですか。能率よく働いて、がり大型店へと躍進しましょう。



ことわざは生活から生れた知恵。そこにはいろいろと教えられることがあります。つれづれに目を通して、話のタネにしてみてください。

コトワザあれこれ

違いたいが情見たいが病、恋がはげしくなれば、あいたい、見たいと思う心をおさえきれない、という意。つまりヤマハが欲しいとなれば居ても立ってもいられない……ってな気持ち。乗りたいが情、走りたいが病となるのは高品質・高性能のヤマハなればこそさネ。

早合点の早忘れ、ホイきた、OK、まかしてけつてんで、その調子のよいこと。しかし頼まれたことをすぐに忘れ、さつぱりアテにならないこと。電話なんかで調子よい返事をしながら、今晚のオカズはなんだろうなんて余計なことを考えていると、こんなことをいわれるハメになる。商売は信用第一。引受けたことは迅速に実行して、誠意のあるところをみせよう。それがヤマハマンの信条だ。

上り坂あれば下り坂あり、遠乗りのことをいっているのではない。人の一生は盛運に向かうときもあれば、衰運に向かうときもあるんだゾ、という戒めの言葉な

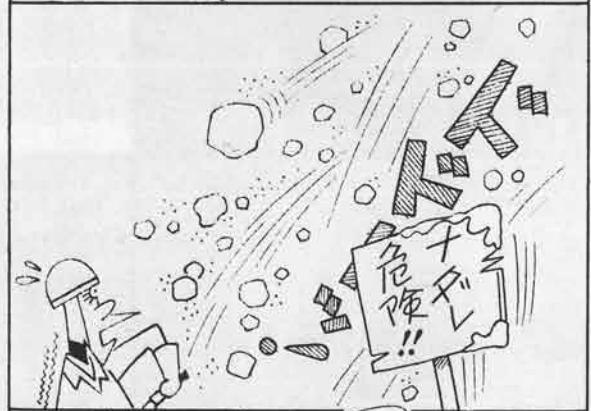
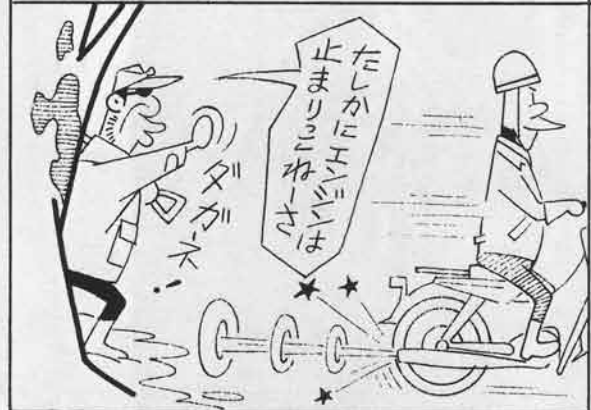
んです。オートループに5ポートで、ヤマハならどんを上り下りもへこたれることはありません。

ヤマハなみの強馬力で積極的に商売をきりひらいていくかぎり、下り坂なんてありません。

車は三寸の機をもつて千里を駆ける。うまいこというねえ。たった三寸のくさびがあればとこしえに車は回りつづける。つまり形は小さくとも、その動きは非常に大きな役目をうけもっているというわけ。車を現代風に例えていえば、メイトは1で100km走る、つていうところ。形は小さくとも、その動きは大きい。動きもののヤマハだ。

二月は逃げて走る、正月が終わったかと思うと、すぐ三月の働く月がくる、つていうくらい二月という月は早く過ぎるという意。寒さはきついが、もう春はそこまできている。二月もバッチリ稼いでシーズンを迎えましょう。

RENSAI 愛のバイク 愛のバイク



トレール教室セットを ご活用ください

新春を期して「トレール教室」が本格的にスタートしました。河原でも宅地造成中の空地でも、たちまち会場に早がわりするトレール教室セットや、豊富なPR用品もとのいました。お店のPRと新規需要の拡大、そして、お客さまの安全教育に役立つトレール教室をどんどん開催してください。



カーバッジにもなります。



トレール教室で優秀な成績を収めた人に贈る表彰メダル。



◀トレール教室の会場設営に必要な用品類も完備しています。はなやかに人目をひく横断幕や、案内標識。これにヤマハ展示即売会用のテントやパラソルを併用すれば、殺風景な河原も、あざやかな色彩にあふれた楽しいトレール教室会場に早変わりします。車や部品用品の展示即売会を同時に開くのも面白いでしょう。



案内標識。

トレール教室記念バッジ。



▲参加者には、記念のトレール教室バッジとステッカーをあげてください。正しい運転の仕方と車のメカニックを基本から身につけるためのテキストも用意されています。



スタートの合図をする役員。



チェッカーフラッグ。



役員腕章。



役員のかぶるトレールハット。



行されます。コースを指示する小旗やスターフラッグなどもそのために準備されています。

▲主催者である販売店のみなさんは、イキなトレールハットや腕章を身につけて、トレール教室の運営にあってください。安全運転を育てる大事な役目です。



▲ お客さんを会場へみちびく横断幕。

▼ 会場の雰囲気盛り上げる横断幕。



表彰式風景。



模範走行をみせるインストラクター（講師）



入賞者に授与されるカップ。

▲ トレール教室で抜群の成績を取めた人のために、カップや表彰状などが用意されています。トレール教室をつうじて安全運転のためのテクニックと心がまえが養われます。



各種の指示フラッグ。



コースフラッグ。

▲ ルールを整然と守って、トレール教室は進みます。ト、ゴール、あるいは走行停止や注意の指示

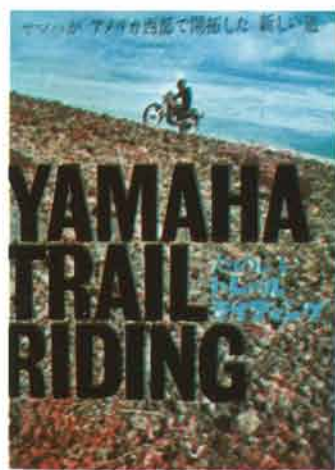


販促の効果も上るトレール教室の案内チラシ。



人目をひくトレール教室ポスター。

積極的に——
主催しててください
必要なPR印刷物もすべて用意されています



トレールライディングの楽しさを知らせるリーフレット。



警察、役場などの協力も受けてください。



オートバイご意見番

佐藤福次さん／秋田県大館市

佐藤福治さん(58才)といえば、秋田県大館市のオートバイ・マニアの間では、ちょっと知られた顔だ。

本職は大工さん兼、農業だが、オートバイのメカニックにかけては整備士も顔負け。花矢ライダーズのチーフ・メカニックとしてならしたこともある。

いつの間にか、オートバイのご意見番兼、マーケッターとして、マニアも一目おく存在になつてしまった。

「いまの若いもんは、見かけだけでクルマを買う。」これが、ベテランの佐藤さんにとってはシャクの種である。

この佐藤さんが、いま最高に気に入っているのがヤマハトレール250DT1だ。

佐藤さんとDT1との出会いは昨年の六月秋田市の五所野へモトクロス観戦に行ったときのこと。

佐藤さんはヤマハトレールの高性能ぶりに目をみはつたが、そのDT1は、惜しくも二位になつてしまった。

そのとき佐藤さんは、思わず一緒に見物していた若者に向つて叫んでいた。「おまえがああ車で走れば、勝てたのに！」その若者は、ためらわずにDT1を買った。

いま、佐藤さんは、いろいろな人びとにDT1をすすめている。

昔は、モトクロスに出るためには、チューニングアップというよりも、部品からつくり上げたものだったが、DT1は、オプションナールパーツをつければ、そのまま勝てる車だ。メカニックなどいらな

いよ」
往年のメカニックは、そう保証するのだった。



オツこれは凄^すい^ご!

火焰をくぐるDT1



人気車種DT1でハツと息を呑むようなスリリングな場面を演じているのは、モトクロス界に勇名を馳せたヤマハフレンドの荒井市次選手。テシガロンハットの西部男もかくやどばかり、荒れ馬ならぬトレール車にまたかり、縦横無尽にその好技をみせている。これは、このほど東京・後樂園球場において行なわれたスタントカー・チーム神風の実演の一コマで、爽快なテクニクでモトクロス・ファンを魅了してきた荒井市次選手が、これまたモトクロスの王車、ヤマハトレール脚DT1に跨り、トレール・ライティンクの妙技を余すことなく披露したものである。

厚板にガソリンをかけて火をつけ、それをDT1に乗車して突破るオートバイ・ファイヤ、右に左にスリリングなカーブをみせるスラローム、そして後一輪走行のオートバイ・ウイニング、さらには下に人をならべてのハイ・ジャンプなど、多彩な演技で万雷の喝采を浴びていました。





田中モーターズのご主人とならんで賞品のメイトに乗る山県さん

▶スノーモビルの活躍はじまる
 (北海道支店発) 話題のヤマハスノーモビルは、本格的な雪のシーズンをはかえていよいよ大きくクローズアップされていますが、このほど北海道士別市の西条モーター商会さんでは地元農協共済連に大量8台のヤマハスノーモビルの一括納入をうけ、ナンバードも新しく、めでたく納車をすませました。



▶オートバイエンジンで ボートの日本新記録!

〔東京支店発〕アメリカカヤヨーロッパのレース界で、市販レーサーでは無敵の独走をつづけるヤマハ250TD1のエンジンをとりつけたボートが、スピードの日本新記録を樹立しました。この快挙を成し遂げたのは、千葉県のヤマハボート特約店、京葉マリーンの経営者である鶴沢雄介さんです。

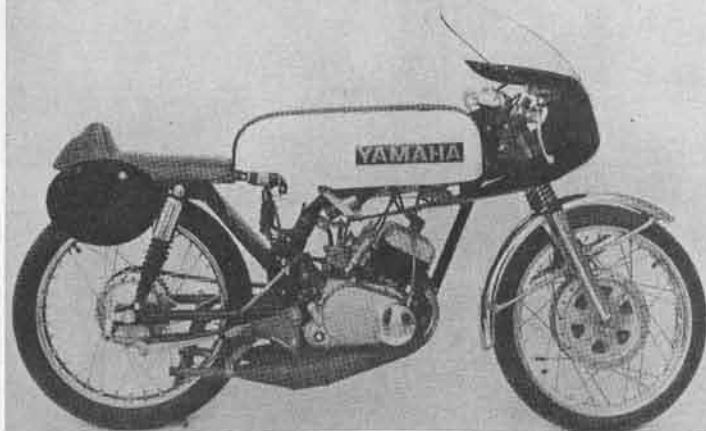
昨年十月、日本モーターボート協会の主催による一九六八年度日本モーターボートスピード記録会が、千葉県佐原市の利根川本流で行なわれましたが、二五〇cc以下A H (ハイドロ) 級に挑戦した鶴沢さんは、時速九三・九〇km/hという驚異的な日本新記録を樹立しました。

このボートに搭載したエンジンは、ヤマハオートバイの250TD1市販レーサーのエンジンを改造したものです。



日本新記録を出したTD1エンジンを搭載したボート

124cc Yamaha racers for market



▶YAS1のレーサータイプ登場

英国で大好評を博している一二五cc YAS1のレーサー型が市場にデビューしました。

これはライダー出身の技術者B・キースの設計によってコンバートされたもので、大型のアマルギ化器が取り付けられ、ポーツティングと圧縮比に工夫が加えられ、回転数も一万三千とかなり高められています。

燃料タンク、シート、風防はファイバーグラス製、前輪リムは軽合金製です。

変速は5段で最高時速にはふれていませんが、テストの結果は非常に満足すべきものであったといわれています。

市販価格は三百ポンド(約二十六万円)です。



九州で有名な松本モーターズ支店長より特等のDT1を受ける黒石一雄さん

▶ヤマハの皆さん、ありがとうございます

〔九州支店発〕 レポートが少しばかり遅れましたが、増売プランNo.1「ヤマハソフブレロセール」で、お楽しみプレゼントのクイズに応募、みごと特等ヤマハトレール250DT1の金を射止めた黒石一雄さん（長崎市中新町一六一）、一等ヤマハメイト50U5D当選の山県東比古さん（福岡県遠賀郡遠賀町）の賞品授与の写真をお目にかきましょう。

特等の黒石さんには、特等取扱店の松本オート株式会社において松本社長およびヤマハ発動機斉藤九州支店長ほか関係者の方が列席してキャンディオレンジのDT1が、また一等の山県さんには、東比古さんが大学にでているためお父さんの正男さんに、取扱店の田中モーターズのご主人およびヤマハ発動機河鍋北九州営業所長から由緒ある宗像神社でともども交通安全祈願をすませたメイトブルーのU5Dが手渡されました。

幸運の当選者は、それぞれハンドルを手にしてもまだ喜びが信じきれない様子で、ヤマハのみなさんに感謝の意を表していました。



◀人気呼ぶレディヤマハ

誰にでも乗れる五〇ccのヤマハメイトIIレディヤマハは、アメリカでもこのところ大変な人気を博しています。

明るいピンク色のボディ、自動クラッチ、セルスターター、レックシールド等、女性ライダーを意識して作られた唯一の小型バイクだというわけで、とくに十代の若い娘さんたちにもてはやされています。

写真はカリフォルニアのファッションショーで、今日のスタイルとして採り上げられたヤングレディとヤマハの組合せです。



▶チモール島のヤマハ

チモール島といえば、はるか南のマレー群島の一角にありますが、ここでもヤマハの製品は大もてです。

写真はチモールの首都デリーで催された島のお祭りにくり出した、ヤマハオートバイの宣伝トラックです。

南洋のローカル色豊かな首都郊外を、にぎにぎしく回り廻って、宣伝効果は満点だった由。



◀ ヤマハ50が国際レースで優勝

南アフリカのプロエムフォンティンで、ベブシコーラをスポンサーとした「3時間耐久国際レース」が行なわれましたが、ヤマハ50レーサーで出場したフランコイス・ストライダム選手は、一クラス上の80ccクラスを制覇して堂々の優勝をなしました。写真は現地ヤマハ販売店エースモーターから送られてきた喜びのストライダム選手と、ヤマハ50レーサーを手がけたチューナーメカニックのFド・ブレッシス氏です。



◀ ヤマハ三五〇cc市販レーサー

レース界の王者ヤマハが、いよいよ三五〇ccクラスのプロダクションレーサーを市場に送り出します。

さしあたり、カナダ、アメリカへ輸出されて三月のデイトナレースに颯爽とした勇姿を現すものと期待されます。

エンジンはツインで、5ポート方式、5段変速、最高回転数は一万五百にまで高められ、ライダーに人を得れば、世界の難コースであるマン島のTTコースを、時速一〇四マイル以上で一周できる高性能の折紙付です。

昨年のデイトナレースは、七五〇ccハーレーに次いで二位に入賞しましたが、今年はこのアメリカ製の大型バイクをおびやかして優勝を狙う絶対のホープがこの三五〇ccヤマハともっぱらの評判です。

▶ 平和を待つベトナムのメイト

和平への見通しもやや濃くなったベトナムから、ヤマハ発動機輸出課の南社員が、つぎのような近況を伝えてきました。

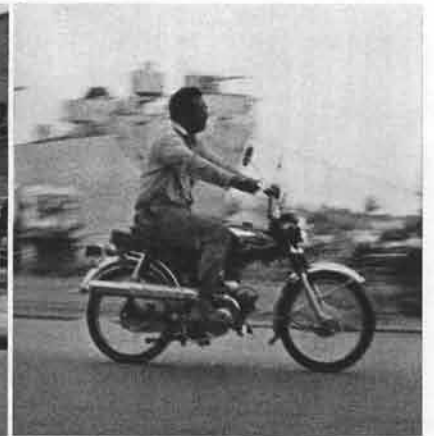
北爆停止、和平……?といえども、サイゴン市内には、まだ時どき、ロケット弾がとんできたり、テロなどがあり、本格的な話し合いはこれからのようです。

ただし市民は一步先んじて、ヤマハメイト、ヤマハスポーツでのんびりとサイゴンの街を走っております。

とくにYF5-Sの人気は格別で、他社の50スポーツよりも四千ピアスタター(一万二千円)も高く、ヤミ値で売れて、ヤマハ取扱店も思わぬ利益とニコリです。



サイゴンの繁華街を走る
ヤマハメイト



サイゴン川に停泊中のアメリカ軍艦を横にF5-Sが走る。

'68 ヤマハサービスマン表彰式

'68 ヤマハサービスマン表彰式が昨年十二月ヤマハ発動機本社で行なわれました。販売店のみなさまと密接な関係にあるヤマハ特約店、販売会社、営業所のサービスマンの技術の向上をはかるとともに、その努力をたたえようというのが、このサービスマン表彰式の目的です。

販売店のみなさまのサービス技術に関するよき相談役を目指して、ヤマハのサービスマンは、腕をみがき合っています。

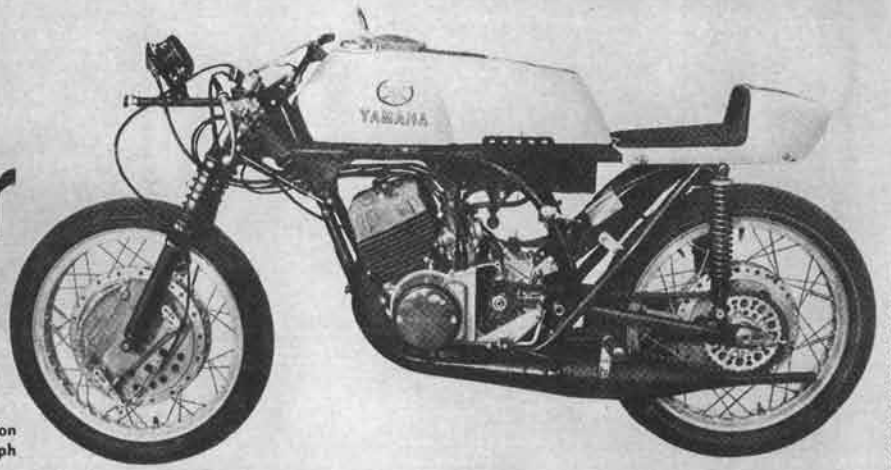


優秀サービスマンに表彰状を手渡すヤマハ発動機川上源一社長



「サービスの技術で、車の品質保持に努力します」と誓うサービスマン代表村田継男さん(信州自動車)

Super-fast Yamaha for the States



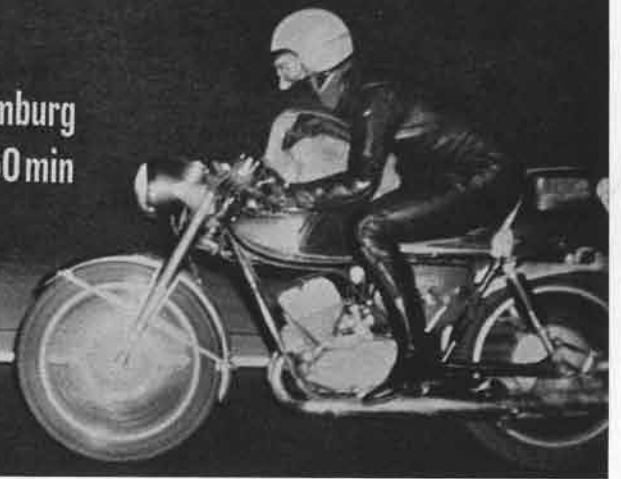
Yamaha are to produce a batch of 350 cc twin-cylinder production racers which have the potential to lap the TT course at about 104 mph in the hands of world-class riders.

驚くべきスタミナYDS-5

西独の専門誌「グス・モートルラート」のテストライダーが、ハンブルグ—ウィーン間千二百三十五キロの長丁場でヤマハ二五〇cc YDS-5の耐久テストを行いました。全行程をヤマハは九時間五十分で走破しました。平均時速は一二五・五九キロメートル。実に驚くべきヤマハのスタミナ……とはテストライダーの言です。

1200 km von Hamburg
nach Wien: 9h 50min

Der erbarmungslose
Test einer Yamaha YDS-5



68 ヤマハサーピスマン表彰式の受賞者はつぎのとおりです。(敬称略)

【最優秀チーム賞】

北海道ヤマハモーターズAチーム 金崎武士 鳥屋輪業商会チーム 加藤佳次 高橋商店新潟店チーム 村山清司 信州自動車チーム 村田健男 第一自動車チーム 山崎祥一 大洋自動車チーム 谷本匡司 谷本元文 池上元文

【優秀チーム賞】

北海道ヤマハモーターズBチーム 石川武 宮城ヤマハ自動車チーム 杉の目義雄 ヤマハ神奈川チーム 岡野裕憲 高橋商店長岡店チーム 藤田真三郎 ヤマハ浜松チーム 中垣勝義 富山内燃機チーム 山崎康文 藤田商会チーム 助長信幸 丸八モーターズ 神戶 淡路チーム 石川勝 ヤマハ島根チーム 川島勇吉 ヤマハ高知チーム 谷本守 熊本ヤマハ販売チーム 近藤守

【努力チーム賞】

谷口モーター商会チーム 片山義次 西条モーター商会チーム 後藤モーターズ・チーム 山口正晴 ヤマハ群馬チーム 山口善三 ヤマハ茨城チーム 鯉淵三男 高橋商店柏崎店チーム 大掛智 ヤマハ栃木チーム 上本健二 ヤマハ埼玉チーム 内田一男 ヤマハ沼津チーム 新聞政彦 島田商会チーム 内田光男 片岡モーター商会チーム 中川重信 ヤマハ和歌山自動車チーム 水本功 丸八モーターズ 姫路 西脇チーム 塚本豊男 佐々木モーターズ 岩田正 常盤自動車販売チーム 山口重喜 ヤマハ宮崎チーム 合屋友次 丸谷自動車チーム 長末道徳

【最優秀賞】

北海道ヤマハモーターズ 金崎武士 高橋商店 佐藤昭治 高橋商店 田中貞一 大洋自動車 森正己 丸八モーターズ 船引建一

【優秀賞】

谷口モーター商会 片山義次 信州自動車 米沢和男 信州自動車 村田健男 高橋商店 元井勇 高橋商店 村山清司 ヤマハ群馬 長沼丈夫 ヤマハ沼津 新聞政彦 丸八モーターズ 弓削幸二 藤田商会 北田晃 ヤマハ徳島 湯浅進

【努力賞】

北海道ヤマハモーターズ 石川武 横山輪業商会 歌川久夫 鳥屋輪業商会 高木次夫 高橋商店 大掛智 信州自動車 白井宗四郎 信州自動車 小池利一 ヤマハ埼玉 内田一男 飯田モーター 鈴木義則 第一自動車 黒宮新治 第一自動車 水谷隆男 第一自動車 山口敦久 保田輪業 坂口邦彦 ヤマハ浜松 中垣勝義 ヤマハ秋松 久保洪谷孝弘 ヤマハ和歌山自動車 水本功 大洋自動車 高井敬 丸八モーターズ 青田修 ヤマハ高知 谷本守 高木兄弟商会 木下豊造 常盤自動車販売 西西社 ヤマハ島根 川島勇吉 ヤマハ福岡 齊藤大策 熊本ヤマハ販売 近藤守

● こんにちは ヤマハ です

◀ 住まいの壁面も生かして、宣伝効果をあげる。



大型店への 城づくり

● 東京都江東区亀戸町
藤間モーターサイクル

まだ世間では、オトソ気分抜けやらない一月九日、新しい年の商戦を勝ち抜くために、店舗改装の足場づくりをはじめたヤマハフレンド店があります。

およそ一週間後、YAMAHAの文字もあざやかな外装が完成しました。東京都江東区の藤間モーターサイクルにとって、大型店に成長するための城づくりなのです。

藤間モーターサイクルは、国電・亀戸駅に近い蔵前橋通りに面して、間口十間の店舗を誇っています。

経営者の藤間正旺さん(56才)は、店舗改装の動機をこう語っています。

■ 専門店化でお客様の信頼を得る

「われわれの商売は、本来、物品販売業であって、修理でたべている時代ではありません。これからは、店舗もバリッとさせ、物品販売業としての形態をととのえていかなければならないというので、店舗の改装をしていただいたわけです。

こうしてヤマハの看板を掲げたのは、流通の機構といい、信頼性といい、われわれ代理店の立場から考えた結果、ヤマハとなら、とことんまで付き合いたいと考えたからです。店の主力商品がなにかを、お客さまにもはつきりさせたわけですが、こうすれば、通りがかりの車でも、この店ならヤマハの部品があるだろうと、安心して寄ってくれますね。お客さんに対して一種のサービスにもなるし、信頼感も与えます。わたしのほうだって、有利になるわけです」

販売店でもメーカーでも、もう、いいかげんな商売をやっていたのでは通用しなくなるという藤間さんは、昭和三年以来、親の代から商ってきた自転車の部門を、思い切った縮少し、オートバイの専売体制を敷きました。

「自転車の商いは単価がごまかいでしょう。だから、自転車の感覚でオートバイを扱うと、儲けそこなってしまう。サービスにしても、オートバイは手間がちがいますからね。

それに、人手がたりないので、自転車とオートバイを両立させるのはむずかしいという理由もありました。

専門店化して、どんどん売って出ることが必要だと思っています」





▲間口10間。フリーのお客さんもふえた藤間モーターサイクル。



▲工事に着手して2日目。「いままで、店が2つに分かれているようにソンをしていたが、こんどは統一できます」

▶守るに堅く、攻めるに強い、藤間さんの「城」づくりは着々とすすむ

■販売中心の店に脱皮

オートバイを扱うようになってから十二年、三年のキャリアを持つ藤間さんは、これからは販売の時代であることを強調します。

「こうして、商品の展示場と修理の作業場とを分けていますが、もつと、車を並べる場所がほしいですね。カタログよりも現物を見せるほうが、お客さんが納得してくれるからです。」

これからは、修理を当てにしていたのでは生活難になります。

われわれは販売業です。車は日進月歩で改良されているのに、三年前のポロ車の面倒をみることはない。お客さんには、金がかかってつまらないから、新車ととりかえなさいと、すすめています。せんじつめれば、毎月、三千円とか八千円とか、修理負担金をしほるよりも、お客に対して親切なんですね」

ヤマフレンド店同士で共同作業場をつくって、店は販売に専念できるような体制がのぞましいと、藤間さんはいう。

「二十年も四十年もキャリアのある人間が、二百円、三百円のバンク張りをして喜んでる時代じゃない。ヒマをつくって遊んで歩けば、行動範囲がひろがり、商売も伸びる」新しい時代にふさわしい販売業のあり方を、つねに検討している藤間さんです。

■フレンド店の団結が必要

「これからの販売は、もつともつときびしくなると思いますよ。フレンド店同士が団結して、地盤を固める必要がありますね。共同作業場もそうですが、共同で広告を出すとか、定期的な話し合いをすることで、体制固めをすすめていきたいものです。結局は、自分の商売を伸ばすことが究極の目的です。」

メーカーもまた、ただ売らせるだけではなくて、こうやって売れない。という方針を打出してもらいたいですね。

将来は、メーカーに経理関係もみてもらいたい、そのかわり、こっちは地域的に責任を持って販売をしていく、そんな体制で伸びていけたらとも思いますね。これからは小資本ではやっていかれませんよ。」

外装づくりがおわったら、今度は店の内部をととのえたいと、抱負を語る藤間さんです。

切抜き帖

90ccではAクラスの太鼓判

★発売間もない90cc級の本格派スポーツ「ヤマハスポーツ90H S1」が、専門誌のテストをうけましたが、その評価は90ccではAクラスの大賛辞におわっています。以下はテストにたずさわった専門家(斎藤一郎、成毛弘備原系之助、横内一馬の四氏)の語る大要で、この春のセールスにも大いに参考となる内容があります。



〔オートバイ〕まずスタイルについてはタウンチューブが太く、力強い感じをうける。しかもヘッドとはヤトイをつけて実がなじぶうだ。引締まったスタイルである——などの声があり、細部については、エキゾーストパイプとマフラーの一体化により、清潔で、保守の面で向上している。懸念されるカーボン除去も、オートチューブの効果で心配はない。エンジン始動は、冷えていてもスターターレバーの使用でワンキックでかかり、始動性は猛烈によい。排気音もいまままでのものより特

長があり、乗っているのが楽しい。苦情のマトとなるアイドリング音、クラッチ音も問題なく、音の処理は非常にうまくいっている。クラッチ操作の味も非常にいい。ワイヤーが軽い。ポンプがついているのを忘れてしまうくらいで、引っぱりも非常にらくだ。ギヤそのもののシフトも実に歯切れがよく、ズルズルした感じはなくパシパシ入る。ギヤレシオも適正である。エンジンはフレキシビリティで、ツイン15ポートの組合わせで立上りのよさは抜群である。重量配分がうまく、ある中速のときは非常によくできていると思つた。エアクリナーの点検はしやすく、サイドカバーのヒンジもラバーのはさみこみで、口があくだけでなく外せる。ヤマハは非常に処理が親切にできている。整流器はシリコンで小型化され、ハイテンションコードは下向きで水にも安心できる。90ccクラスとしてはAクラスである。(2月号)

大型店めざして近代経営の自覚を

★昭和四十四年は二輪車の内需、輸出に活況の年とか。生産面は軽量車の比重が増し、輸出は二億ドルを越え、販売では新車開発で需要増の拡大が期待されているというのが専門紙の推測です。それにつけても、これからのセールスは実力がものをいう時代で、経営感覚に目覚め、時代の流れにおくれをとることのないよう注意を喚起しています。

〔二輪車新聞〕小売り店は全国に約五万店存在するという。これには四輪を主体に二輪を併売する店、自転車を中心に二輪を併売する店、整備を営み二輪を併売する店、二輪車を専売する店など、いろいろである。これら小売店の企業格差は近年、顕著になりつつある。軽四輪ブームなどの影響をうけ、販売意欲を燃やす小売り店があれば、旧態依然として生業にちか小売り店もあるからだ。

ここで問題となってくるのは、生業にちか小売り店であろう。五万店のうち、大半がこの生業にちか小売り店が占めるとなると問題は大きい。つまり、指定店化の浸透によつて経営意識に目覚めない小売り店は次第に取残されてしまう可能性が十分にでてきたからである。

これは指定店とたんなる小売り店とは優遇策面で大きな格差が生じているからで、ここに実力ある小売り店と、生業の小売り店とは自ずから経営内容の格差がついてくる。したがって生業を営む小売り店は、取残されないためにいかに生きなければならぬか決断をせまられる年になるだろう。この吹き荒れる嵐にどう目覚めるか。これがこれからの小売り店に課せられた大きな問題である。

売れていますヤマハスノーモビル

★スノー・モーションすなわち雪遊びをしようと呼びかけているこの広告は、カナディア・モーターサイクリング誌に掲載されたヤマハスノーモビルのもの。売れているヤマハの新製品です。因みに左のスキーマヤマハ製の

整備の強化が安全への第一歩

★高速道路をつつ走る自動車は二〇台のうち一台がタイヤ、ハンドルなどの整備不良車というおっかないお話。お店のお客さんの車に

整備不良車がないか、せいぜい定期点検の励行を呼びかけてください。

〔日本道路公団〕この春には東名高速道路も全通して、関東と中部、そして関西がより近い距離となるが、日本道路公団はさる十月、運輸省、警視庁などの協力を得てさきに一部開通した東名高速道路の東京インターチェンジ下り線入口で通過自動車の整備状況を調べた。その結果、調査時間内に通過した自動車総数四千一〇〇台のうち、年代の古い自動車など四七五台を調べたが二七五台が整備不良車であることが判明した。つまり整備の行届いていない車はざっと二十台に一台もあつたわけで、これについて同公団は「調査したのはいずれも車であり、実際には不良車はもっと多いはず」とみている。

整備のよくない車のうち、もっとも多かったのはタイヤ関係で、トレッドの溝の深さが2ミリ以下に減っているもの、空気圧が不足のものが目立ち、ついでブレーキのきかないもの、ハンドルの不良などがつづいた。

投げ釣りの次はボートブーム

★釣り人口は一千万とも一千二百万ともいわれていますが、ここ数年來つづいてきた投げ釣りブームも、乱獲や汚水などによって釣り場がせばめられてきていることから次第にボート釣りに転向してきているという。そこで立役者となるのがヤマハです。

〔釣具新聞〕釣り業界へ一番早く入ってきたのがヤマハで、自動車の屋根へ乗せられるという「フィッシャーマン12」を開発したが、価格が一艘九万円、これにヤマハ船外機P35A（S五万二千元、L五万三千元）とで、合計十四万二千元から三千元で、サラリーマンにとってはいま少し手がとどかない。しかし昨年四月から銀行ローンの制度を施行したので月賦ならかなり買いやすい値段といえよう。

このフィッシャーマンよりも小型のローボート10、同12は10が四万五千元、12が五万六千元であるから前述のP35Aをとつければ9万7千元、12で十万八千元になる。この程度のものなら自動車をもっているクラスの人なら購入しやすく、また銀行ローンを利用すれば一段と買いやすくなるというものだ。投げ釣りの次にくるのはボートブームと予測される。
(1月1日)



これは高い、取りすぎる

★高いもの、取られるものといえば誰れもがすぐに税金を思いだすが、さて、オートバイのエネルギー源、ガソリンにはいったいどの位の税金がかけられているか、石油消費税の引上げもチラホラ耳にするので参考までにお知らせすれば……

〔石油連盟〕エネルギー供給の原則からいって、安くあるべきガソリンや軽油に煙草や酒を上回る最高の税率が課せられている。ガソリンは六一・一%、軽油は五〇%の税

率だ。たばこの「高いこい」でも五四%にとどまっているし、清酒の特級が四四・三%にくらべ同じ間接税とはいえ、産業のエネルギー源であるガソリン、軽油にこんなに高い税率が適用されているのはうなづけないことだろう。それを道路整備財源に当てるという大義名分はあってもさらに引上げようというのとはとりやすいところからできるだけ余計とろうとの気軽な考えによるものと思われ、税負担公平の原則を無視した暴挙といつてもいい過ぎではあるまい。

世界GPに新フォーミュラ

★昨年の世界選手権ロードレースで、ヤマハは125cc級、250cc級の出走二クラスのメーカーチャンピオンを獲得しましたが、この時のGPは新しい規則が追加され、入賞の得点数も変わりました。

〔モーターサイクリスト〕国際モーターサイクルスポーツ界のもと締めFIMでは、マドリッドで秋季総会を行ない、次のような69年度からの世界選手権ロードレースについての方向を打ちだした。

- 50ccクラスⅡエンジンは単気筒、変速機は6段以下、最低車両重量60kg
- 125ccクラスⅡエンジンは2気筒以下、変速機は6段以下、最低車両重量75kg
- 250ccクラスⅡエンジンは2気筒以下、変速機は6段以下、最低車両重量100kg

といのがその規則。50ccクラスについては69年から、125cc、250ccクラスについては70年から実施されるという。

また今シーズンから世界選手権の得点数も変更される。新得点制は1位から10位までそれぞれ15、12、10、8、6、5、4、3、2、1点が与えられるもので、従来の1位8点、6位1点方式にくらべ同点になる可能性がぐんと少なくなる。
(2月号)

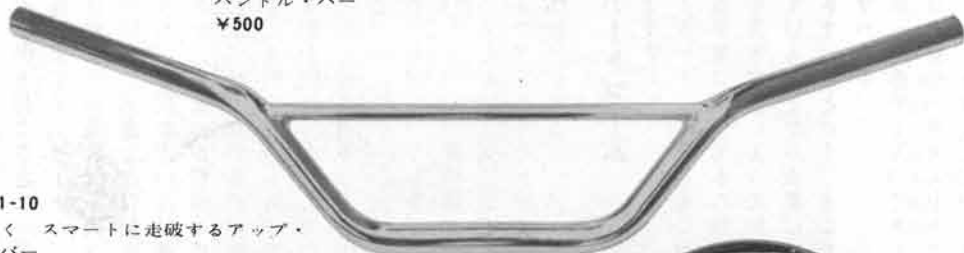
★オプション・パーツ・コーナー

ヤマハ 50 F5 SERIES

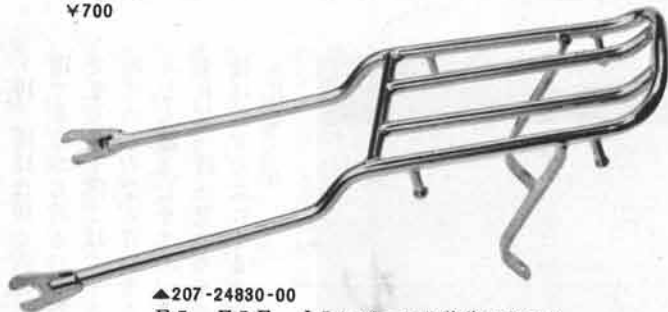
外装関係を主としたヤマハ50 F5シリーズのオプション・パーツです。お客さんと一緒に“カスタム・ヤマハ”を製作してあげたいかがでしょう。なおこのほかに、アップ・ハンドル用のワイヤー各種その他の関連部品も揃えてあります。



▲127-26111-20
ハイ・スピードの感じを満喫させる一文字型
ハンドル・バー
¥500



▶201-26111-10
悪路も難なくスマートに走破するアップ・
ハンドル・バー
¥700



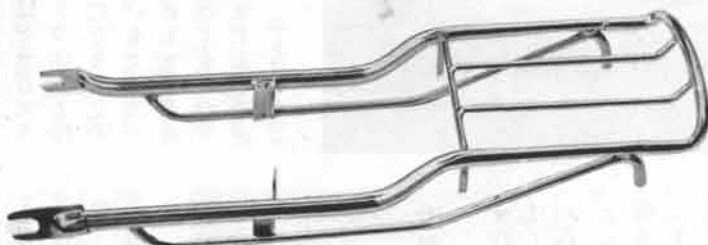
▲207-24830-00
F5、F5E、J5にぴったり装着できるた
いへん便利なサブ・キャリアー
¥1,000



▲127-24650-00
駐車時も安心 ちょっとデラックスな気分を
そえる錠付キャップ
¥650



▲220-22210-20
クロームメッキのコイルスプリングがむきだ
しとなったスポーツ仕様のリヤ・クッション
・アッセンブリ
¥1,500



▲220-24830-00
F5C用のサブ・キャリアー
¥1,000



▲207-27311-10
駐車時に便利なサイドスタンド
¥180



▲150-27316-00
サイドスタンド・スプリング
¥40



▲218-21787-00
黒い部分が黄色のエンブレム・チェッカーフ
ラッグ 車体のサイドケースにどうぞ
¥180

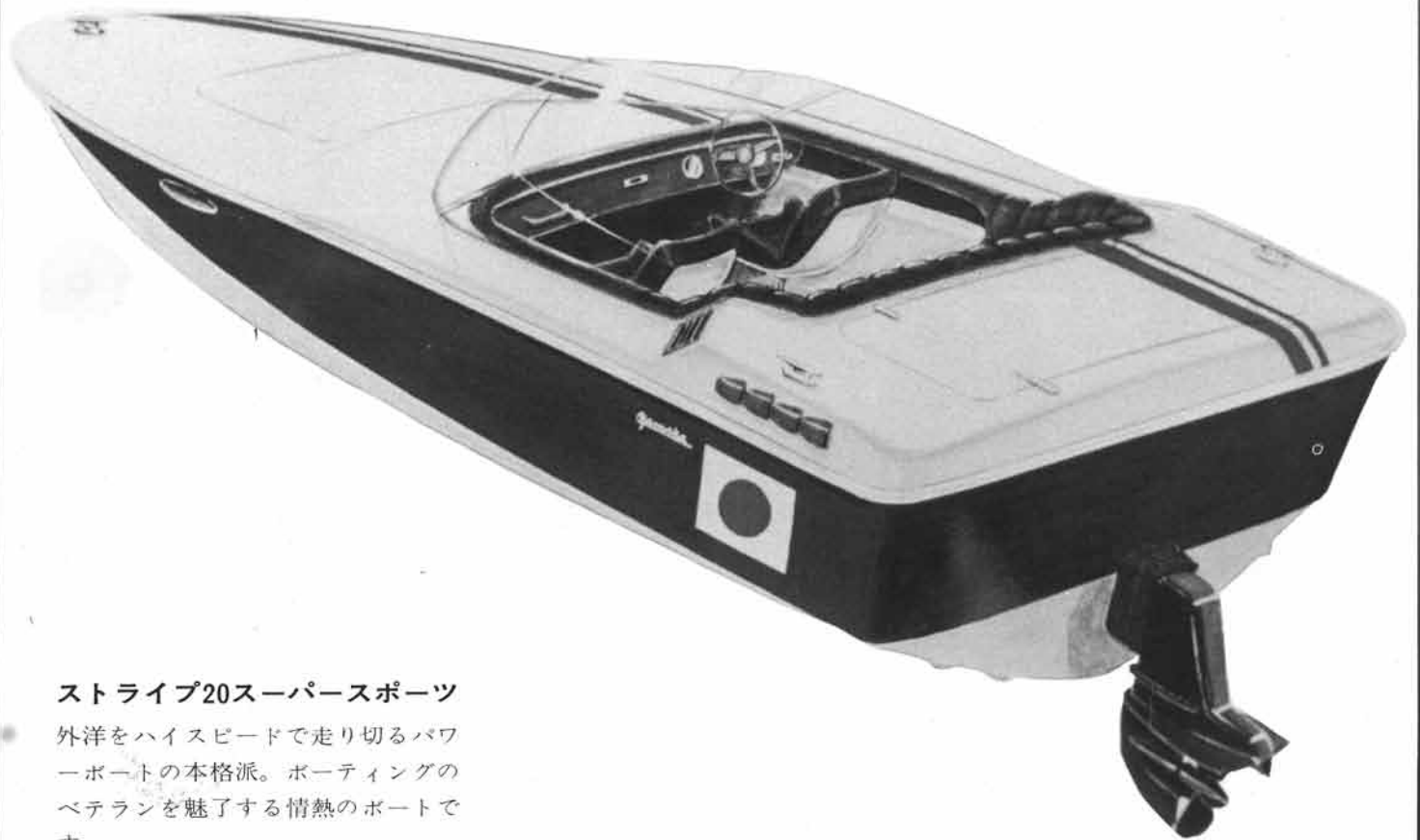


▲193-21787-00
白い部分がシルバーのエンブレム・チェッ
カーフラッグ シャれた感じがうけています
¥180



▲166-18541-62
ギヤ・チェンジをロータリー式からリターン
式に改造するカム・シフト
¥400

水のヤマハも 挑戦する！



ストライプ20スーパースポーツ

外洋をハイスピードで走り切るパワーボートの本格派。ボートिंगのベテランを魅了する情熱のボートです。

'69ヤマハボートがラインアップ

日本の海を独走するヤマハボート '69新艇群が勢ぞろいしました。東洋一のボート工場で作られるヤマハは、国内の市場占拠率もトップの70%。手こぎのローボートから大型クルーザーまで、最大のラインアップを誇っています。卓越したF. R. P. 技術、そしてデザイン、性能、耐久性。つねに日本のボートを代表するのがヤマハです。陸のヤマハが、世界選手権ロードレースで輝く2種目制覇をとげ、評価をゆるぎないものにしたように、今年は水のヤマハも世界の市場に挑戦します。

ひとり 誇り高き男が 走る



トレール
シリーズが
充実しました



最大トルク1.17kg-m/6,000r.p.m.

最高速度105km/h

最高出力11.5ps/7,500r.p.m.

現金正価¥145,000